

認証評価の評価結果（概要）

1 大学機関別認証評価

→「大学設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている。」

◎優れた点 17 項目、○更なる向上が期待される点 2 項目、●改善を要する点 2 項目

基準 1 大学の目的

特になし

基準 2 教育研究組織

特になし

基準 3 教員及び教育支援者

【優れた点】

- ◎ 前回認証評価後、新たに職員表彰制度の選考基準見直し、学内競争的研究費の充実を実施するなど多様な取組を行い、教員組織の活動を活性化している。
- ◎ 専任教員の個人評価を実施し、その結果を昇任選考や再任審査、研究費の配分等に反映させるとともに、評価の低い教員に対する指導助言や教育方法等の改善のために利用している。

基準 4 学生の受入

【優れた点】

- ◎ 毎年度、入試区分別学業成績や卒業後の進路、修学状況等、多岐に渡るデータを組織的に集計し、部局ごとにデータを基にした入学者選抜の検証を行い、結果を改善につなげている。

【改善を要する点】

- 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。

基準 5 教育内容及び方法

【優れた点】

- ◎ 「いのちと自然」「きずなと社会」「くらしと環境」を3つの柱とし、これらの総合的な学習を通して、持続可能な社会づくりに貢献する人材の養成を図る副専攻プログラムである環境ESDプログラムは、北九州市の環境施策等との連携を図る特徴的な取組である。
- ◎ 「地域の再生と創造」を担う人材の養成を目的とした地域創生学群は、地域の人々と一緒に農業という視点から地域活性化を目指すプロジェクトや商店街の人々とイベント等を企画・実施するプロジェクト等を教育課程に組み込み、社会からのニーズに貢献している。

- ◎ シラバスに、学位授与方針の「学生が卒業時に身につける能力」のうちのいずれを伸ばすものであるかについて明示している。また、シラバスの記載をチェックする体制を作り上げ分かりやすいシラバスを提供している。
- ◎ 「Kitakyushu Global Pioneers (北九州グローバルパイオニア)」は、平成 24 年度に文部科学省「グローバル人材育成推進事業」に採択されており、副専攻プログラムである Global Education Program を中心とし、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を推進している。
- ◎ 平成 20 年度に文部科学省教育 GP に採択された「地域密着型環境教育プログラムの戦略的展開」(平成 20～22 年度) の取組成果を引き継いだ国際環境工学部の環境問題への取組は、平成 25 年度から開始した新しい教育課程の中にも組み込まれ、1 年次の「環境問題事例研究」による問題意識の涵養から、専門課程における最先端の研究への参画まで、様々な学生のニーズに応える特徴的な取組となっている。
- ◎ 平成 24 年度に文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」に採択された取組「まちなか ESD センターを核とした実践的人材育成」では、北九州市内 10 大学が連携して実践的な人材養成を行い、単位認定している。
- ◎ 国際環境工学研究科では、文部科学省「戦略的大学連携支援事業」や「大学間連携共同教育推進事業」を活用して、他大学院との「北九州学術研究都市連携大学院カーエレクトロニクスコース」や「連携大学院インテリジェントカー・ロボティクスコース」の開設等、学術の発展動向や社会からの要請に応えている。

【更なる向上が期待される点】

- 平成 27 年度に文部科学省 COC+ に採択され、地域社会が求める人材を育成する教育プログラムの構築及び実践、地域志向科目群の新設等を通して事業期間の 5 年間で北九州市と下関市からなる関門地域の地元就職率向上を目指している。

基準 6 学習成果

【優れた点】

- ◎ 平成 21 年度に開設した地域創生学群は、卒業生を輩出した平成 24 年度から 3 年連続で就職率が 100%となっている。
- ◎ 学位授与方針に示される学生が身に付けるべき能力について、卒業時の到達度の調査や卒業生の就職先のアンケートによる修得率の評価等を通して、学習成果の把握に努めている。

基準 7 施設・設備及び学生支援

【優れた点】

- ◎ 障害のある学生の情報把握を行い、個別のカルテの作成や教職員への手引書の配布等、平成 25 年度に策定した指針に基づき全学的な支援体制を整備している。

【改善を要する点】

- 平成 27 年度においては北方キャンパスには外国人学生が入居できる寮がないなど、受入学生をサポートする施設・設備が十分でない。

基準 8 教育の内部質保証システム

【更なる向上が期待される点】

- 平成 26 年度に文部科学省「大学教育再生加速プログラム」に採択され、大学での学びの達成度アセスメントや実践的教育のソーシャルインパクト測定等、学生の成長の可視化と自己管理の仕組みづくりに取り組んでいる。

基準 9 財務基盤及び管理運営

【優れた点】

- ◎ 事務局体制強化のための組織改正や人員配置の見直しを行うとともに、目指すべき職員像や研修の基本方針を定めて、計画的な研修実施や大学法人採用の職員（プロパー職員）の指導の強化を行うなど、事務職員の人材育成を推進している。
- ◎ 事務職員が教員と共同で活動する場を設け、若手職員が大学の将来ビジョンや広報戦略について検討する取組を進めるなど、第2期中期計画に掲げた大学の認知度向上を推進するため、若手教職員でブランディング検討ワーキンググループを設置するなど、積極的な取組を行っている。
- ◎ 平成27年度の認証評価へ向けての自己評価書では、根拠資料・データの適切な提示や問題点の的確な把握を行い、質の高い自己評価を行っている。

基準 10 教育情報等の公表

【優れた点】

- ◎ 法人化後に積極的に進めてきた大学改革について実際に改革を担当した教職員が共著で書籍『シリーズ北九大の挑戦』に取りまとめ、学内外に発信している。